

2024年冬 TC 技術検定 2級使用情報制作ディレクション[DR]実技試験の出題意図

ディレクション試験の実技問題は、「担当とコスト管理」、「情報と動画の管理」、「目次構成」、「多言語翻訳を含む工程管理」の4課題が出題された。問題形式は、計算、選択式が多く、記述は少なかった。ただし、難易度の異なる課題が取り混ぜて出題されているので、時間の配分に注意が必要である。また、学科問題では出題できない応用力が問われているので、記憶力ではなく実務経験が必要なものばかりである。

【課題1】

工作機械の操作マニュアルの担当選択と日数計算が題材。工程ごとに担当と作業量、担当に該当するスタッフの生産性と単価の表が提示され、スタッフの割り当てと、2つの工程が同時に進行する場合を考慮した稼働日数を計算する。コストが最低になるようなスタッフ割り当てと日数、その後に、稼働日数の制限が加えられたときの最低コストのスタッフ割り当てを行う。計算は単純だが、組み合わせがいくつかあるので、間違えないよう計算すれば解答できる。

【課題2】

車いすのマニュアル制作とメンテナンス動画が題材。新製品のマニュアル制作に対し、利用者・介助者などから情報を収集し、それらがどういった情報かを分類する。さらに、メンテナンス動画の対象者を設定する。車いすという製品の特異性から、利用者・介助者・購入者（病院などの施設）など、さまざまな立場があるため情報の分別に注意を払う必要がある。それぞれの立場に立って、利用シーンを想定すると解答はできる。

【課題3】

顧客情報管理システムの目次構成が題材。システムの画面機能一覧と条件に基づき、目次構成のタイトルを埋めていく。ただし、タイトル案は、単に移すだけでなく、条件に従って書き直しが必要である。書き換えを忘れなければ解答できる。

【課題4】

ソフトウェア製品の翻訳スケジュールの検討が題材。ソフトウェアのため、取扱説明書だけでなく、画面上のボタンや表示されるテキストの翻訳が含まれる。さらに、多言語翻訳を行うため、日本語からターゲット言語へ直接翻訳するか、一度翻訳したターゲット言語を介して別のターゲット言語に翻訳するかを検討する。また、翻訳の効率化を図るため、用語辞書をどの時点で作成するか、類似製品の用語辞書を参照するか、といった条件も加味される。各情報を読み込み、論理的に組み立て、筋道を立てられれば解答できる。

2024 年冬 TC 技術検定 2 級使用情報制作実務[MP] 実技試験の出題意図

制作実務試験の実技は、「ピクトグラムの作図」「クラウドサービスのコンテンツ構成」「校正」「ライティングのための情報読み取り」の 4 課題で、校正を除くと新しい傾向の出題であった。問題形式は、作図、情報の読み取りとルールの発見、媒体を変更する目次とライティングなど、制作実務に欠かせないスキルが含まれていた。問題文の情報量にばらつきがあり、時間配分に注意が必要である。また、学科問題では出題できない応用力が問われているので、記憶力ではなく実務経験が必要なものばかりである。

【課題 1】

フロアマップに掲載するピクトグラムの作図が題材。依頼の指示に従い、ピクトグラム（図記号）の一覧から選択し、作図ルールにのっとり描き、色の指定をする。描画の仕方、色の指定方法は、解答例が掲載されていることと、選択する図記号は迷うことなく判別できる。解答用紙には、描画用の補助線があるので、フリーハンドでも直線・曲線、凹凸をまねて描ける。丁寧になぞれば解答できる。

【課題 2】

クラウドストレージサービスの冊子説明書を Web に掲載することが題材。「冊子の目次と、Web コンテンツの構成を比較し、掲載方針に従って見出しを作成することと、検索向上のためのキーワード設定が、各設問である。見出しも、キーワード設定も、Web の特性が理解できていれば解答できる。

【課題 3】

「マニュアル制作部門の目標」の校正が題材。執筆ルール、校正の方針と、変更点があるので、それらを合わせて、元原稿で指示すべき箇所を探す。校正の形式は、従来の出題と同じパターンであり、内容に惑わされず、普段の業務上の注意力があれば解答できる。加えて、ユニバーデザインやアクセシビリティといった条件が新たに加わり、必要な理由を解答するもの。

【課題 4】

天体望遠鏡での観測用説明書の条件選択が題材。制作実務の前工程として、どの組み合わせを選択するかを指定する。さらに、選択したものの名称を解答する。問題の情報量が多く、読みこむのに時間はかかるが、情報を整理して、該当する条件を見つければ解答はできる。